

家庭内における既婚男女のテリトリーに関する研究（第2報）

○米田 友紀*、中島 喜代子**（*三重大・院、**三重大）

目的 近年のストレス社会において個人のプライバシーを守り、個人生活を確立するための空間を住宅内に確立する要求や必要性が増加していると思われる。そこで家庭における既婚男女のテリトリーの実態とそれに対する意識を捉え、テリトリー形成要因を探ることによってその促進の方策を探り、さらに各個人のテリトリー形成が各個人や家庭にどのような影響を及ぼすかを探ることによって個人の場がいかにあるべきかを追求することを目的としている。

方法 三重県津市の新興住宅地の一戸建て住宅に居住する各家庭の既婚男女を対象に留置式のアンケート調査を行った。調査時期は平成11年9月で、有効回答数は242件であった。

結果 既婚男女のテリトリーについて基本テリトリータイプと防御性を加味した防御テリトリータイプの2つを設定し、それぞれ個室テリトリー型、共有空間テリトリー型、全スペーステリトリー型、テリトリー非形成型の4つに分類し分析を行った。既婚男女が家庭内にテリトリーを形成する要因を個人生活・家庭生活の実態と意識からみると、既婚男女とも空間条件や年齢、趣味、個人のプライバシーに対する意識、さらに既婚女性では自由時間、社会的活動の参加状況などにテリトリー型による違いがみられた。また、日常行為の場や所有物の置き場、所有物の使用状況、普段過ごす部屋、一人になれる部屋、くつろげる部屋等、家庭内の場の実態と意識においてテリトリー形成による影響がみられることが捉えられた。